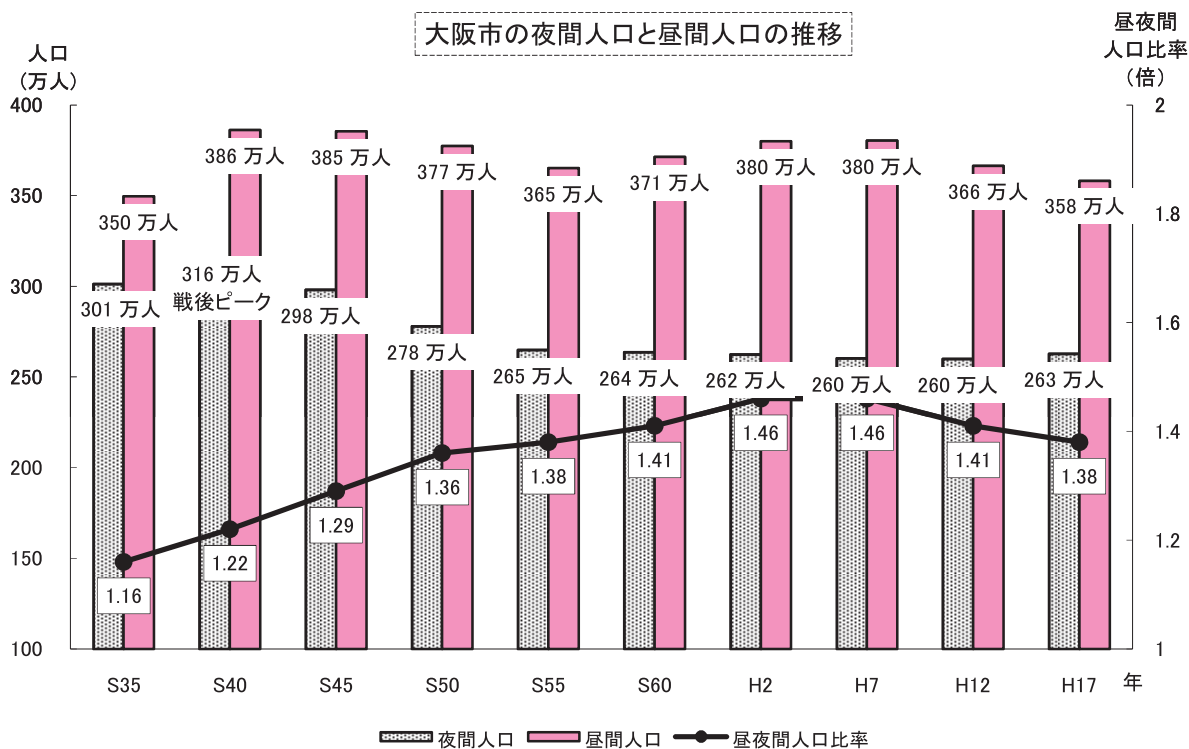


②膨大な昼間流入人口

- ▶ 大阪市の夜間人口は昭和40年の316万人をピークとして減少していますが、昼間人口は、多少の増減はあるものの、360万人から380万人の水準で推移しています。
- ▶ 大阪市は事務所や事業所などが集中しており、昼間流入人口は、大都市の夜間人口に匹敵する規模となっています。
- ▶ このような物と人の集中により、財政需要は増嵩することになります。

<物と人の集中により増嵩する財政需要>

都市基盤の充実(街路、公園事業など) 利便性の確保(地下鉄、バス事業など)
 生活環境の充実(清掃、下水道事業など) 防災機能の充実(消防・救急業務など)



他都市の人口

(人)

	大阪市	東京都区部	横浜市	名古屋市	京都市	神戸市
夜間人口(*)	2,628,811	8,489,653	3,579,628	2,215,062	1,474,811	1,525,393
a	2,594,686	8,351,955	3,545,447	2,193,973	1,460,688	1,520,551
昼間流入人口	b	1,239,051	3,354,289	399,345	516,793	240,589
昼間流出人口	c	252,062	421,545	739,648	194,570	118,297
昼間人口	d=a+b-c	3,581,675	11,284,699	3,205,144	2,516,196	1,582,980
昼夜間人口比率	d/a	1.38	1.35	0.90	1.15	1.08
					1.08	1.02

(*)夜間人口の下段(a)は、昼間人口、昼間増加率、昼間流入率の算出基礎となる常住人口で、年齢不詳の者を除いた人口
 資料：平成17年国勢調査